

合同部会（工業・情報通信部会）部会長報告

1. テーマ 県内事例から学ぶ「DX推進セミナー」
2. 目的 人手不足の解消や、賃金引上げのための製造工程の見直しなど、DX化による生産性向上を図るため、**身近なDX取組事例の情報提供を通じて、戦略的なDX化・デジタル化を促進するため開催した**
3. 日時 2025年**3月11日**（火）
10：00～11：30
4. 場所 秋田商工会議所 ホール80
5. 出席者 **60名**（会場25名、オンライン35名）
6. 事例発表
 - (1) 「**ノーコードツール活用による情報の一元化・業務効率化**」
株式会社イヤタカ 代表取締役社長 大野 恒平 氏
 - (2) 「**DX初めの一歩 IOTの予防保全への適用と展開**」
秋田県産業技術センター 先進プロセス開発部
スマートものづくり技術グループ 瀬川 侑 氏

「**鋳造工場生産現場のIOT導入によるスマート化**」
北光金属工業株式会社 取締役品質保証部長 千葉 雅則 氏



事例発表 1（株）イヤタカ（飲食事業、パーティー事業、ブライダル事業等）

【ノーコードツール活用による情報の一元化・業務効率化】

- 少子化、物価高、新型コロナ等、経営環境の変化による顧客ニーズに対応するため、**マーケティングによるニーズの把握と、人手不足対策として業務効率化が必要**となった
- DX推進にあたり、いきなりDXによる変革を目指すのではなく、その前段階として**会社のルールを見直し、業務フローの最適化を検討**のうえ、**販売・仕入・生産管理などのプロセスを整理**した
- 社内データを一元管理するため**Kintoneを導入**。エクセルや紙ベースで管理していた情報を集約し、**予算・販売管理、受発注、請求書発行などを自動化**した
- 成果として、会議の資料作成時間を削減し議論に集中できるようになったほか、売上等の成果データは**リアルタイムで情報共有**でき、自動化による**人的ミスの削減、意思決定のスピードアップ**、本来業務に集中できる環境構築に繋がった

事例発表 2 - ① 秋田県産業技術センター

【DX初めの一步 IOTの予防保全への適用と展開】

- 秋田県産業技術センターでは、県内企業の技術支援、共同研究、技術相談、設備の提供等を行っており、**デジタル技術でビジネスや業務の仕組みを変革し、①生産性・品質向上、②作業の自動化、データ共有、ノウハウ継承による人手不足の解消、③市場のニーズの変化に合わせた製品・サービスの高付加価値化を支援している**
- 秋田県内では、**DX化に未着手である企業が多く、「理解不足」「人材不足」が主な課題**となっている
- DX化推進のポイントは、**①目的の明確化**（IoTは手段であり、最終目標を意識）、**②経営者と現場の相互理解**（現場の反発を防ぐ）、**③スモールスタート**（小規模な試験運用）などが挙げられる
- DX推進には、**目的意識を持ちつつ、試行錯誤を重ねながら進めることが重要**である

3

事例発表 2 - ② 北光金属工業（株）（土木建築用鉄筋継手等製造業）

【鑄造工場生産現場のIOT導入によるスマート化】

- 当社では、**突発的な設備故障による生産ラインの停止が課題**となっており、従来の予防保全（熟練作業者の経験や点検による故障予測）では、**部品交換の適切なタイミングを判断するのが困難で、早すぎる交換はコスト増、遅すぎる交換は設備故障につながるリスクがあった**
- 2022年5月から秋田県産業技術センターと共同研究を開始し、**IoT技術を活用した予防保全の仕組みを構築**。加速度センサーや電流センサーを設備に設置し、**リアルタイムでデータの取得・分析を行い、異常時にはアラートが発信される仕組みを整備した**
- 異常データを蓄積・分析することで、より適切な予防保全が可能となった。**計画的な部品交換により、生産の安定化とコスト削減を実現できた**
- 今後は他の製造工程にも水平展開し、さらなる効率化を図る

4